国立国会図書館　　廓の桜 208-17

ガラス使用

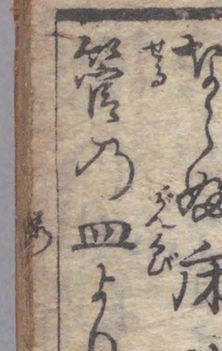
言合鶯後

208
8
14

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

言葉鳥
二篇目 廓の櫻



這里は。本數百一面の花ざかり。
原仲の町乃景色なり。夕べ桜花
賑ふ。植込む毛氈の上。桜果乃下艸れ
も。坊主兎の耳のごとく。極
細き。床几をかけ。伊久大臣のごとく。煙
管乃口より。高慢の鼻通し。鄙

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

花の
江川春
梅暮里谷峩序

雲ひく艾髭ふるく。延喜の鼻毛ハ。膠をもて接。是よろづ所の聖。鉢巻から冠て人間滅多ニ。ひとりも無助六ハ。我しらぬ男伊達を。總角の禿夫。打つれ。終夜遊手の同行狂小陽ら也。酒を。百ど不酔。視ぬ毎ニ。花の顔ども。咲そめ。尤名の。茶屋揚屋もいぼ也。三階障たる

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

目録

初幕
二立目
三立目
四立目

三浦のざん
吾見のざん
縁切のざん
待伏のざん

廓の桜

二番目初幕

梅暮里谷峨著

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

わふさわぎぶやのコレ笑ねぞや金
の金をつかひくれ茶ノ小袖のこと
ひまに祖ぞこそれぬお庭も早ず、おきもやどそのやうふ
つく祖んこてぞふこてくまるのご
わふそれこうふがァノ仗立ふたてる
助ふいこわトがちつさ本ぞくふ
ほこて何も仗六がやう
そて助六ぞれてあげら

国立国会図書館　　廓の桜 208-17

ガラス使用

おりう　粉文のことぞ　マア男へ仏作たてゝあるやうぢやないかへそうやさう雄（とう）蔵薄雲小紫乃時代のそのまんまと今ごろ毎日ぬことぞ今でそうそりのつよんのハ芝居の世界（そで）ばかりかういふりのコレ来（ル）取もくひしろ森ぢやぢんぬ六ぬ人ぶろんぬ貝よめもらもてく赤所（きやうえ）てもそねぢひ一度ハあつてもそうぢやぢやぬ揚（あげ）巻（まき）マアそうぢやぢやぬてなもと勝（かつ）造（ぞう）さくーぢものやうみりのでも咲（さく）うそをふいつておらん

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

ゐでざんを[いく]そこおやてぶ
かんぞんの年方ふせうちこと
さうそうホしてあそでをこぶアやら
とつよりのいえんやろくお新をこせね
ものロハつよおこ寺正月ごこ
さその思もこれいたしまし乳
てやまんものでもあんがそこ
こねものこと東へ若衆ごよがく

ごらふこいつそれバアンやろうがいくこるをてなれ
ワさくーハ人の中ごでいのちこ
あんうれをちひしたゆえそこ
ふうこおれでは中に好いをこいつ
ゆへそうや後こいふこるやそのよう
ようざんをおやえさんがおきこなん
ぞうでらちのゆねをでさんをこ
この中を引およふなあくことり次い

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

いとうひでまひかうつとく実とせてても馬耳風轟
えんもん
面水くるーい事をいて出とそうぐのいとけいふうた
てそこんさてくれんせ[楊生]おめくさんそうに幸そと
まていてんとそらずいぶんきくとけてあけそうざ
んとがそうもいしてくろうちのつぶそうざんをかぶ
もそうへされんせん[いく]そのやめくさんてざん
せうともうふざんをそれそうらい神よお出そんしたそ
口さくるーがそろえお出そんとそうふうもーうざんすがそき

くるーくん来迎そうの西へさまでありくんのさまへいり
いとそめくらいわくそれはいとおつくてきるるーなさくるーへつそうあ
んとそれわ出ハでんとそがいつもでおつぐなんしてもれ
ゐーぐるで来のぐくでざんすうそうせんどもみまき
みいんそうもさ如来もあるべ候分おくいんしそれ
せそもかの内へいきそんとともかそ
さんせんとさでいくしたも人まてこおやえさん

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

申え治ぐ兵のよこ荷をよふ
れもきられるんせ次通てひつ
てりまれいてんとが出ろくんと
ざんとろうまんもいつくおろ
に気よさるるや顔のようぞれろ
さんもろう[場]そんおろうれめえも
いつのう[場]ワさろうくろいつ
おめくんろんはゆをふるんすぐいい

伊久も助六ぬつきだをに思ますに
の顔をふゆんとおりしいふあんまさろうの
事のまだ私のうちふうすぜあのようふ
加まることと一度ずんだ二度までまだろうを
ちぐえ若ものときろくふ
[久]形気をだしてろんで[場]おろう
でろーぐもぶいつ事ハきひてもおくろ
ろうくおまえのやうれーおろうていをろくまま

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

八わん 揚巻 それでもあいすか 久 たまやで
揚巻 でござりんす 久 さんざ申そうでござんす
ゆふべあよまするがいゝ 揚巻 そ何ハどふもいやう
ござんす

伊久 ゑゝひらべそめ ゆふ
ゐんきやもうやく九前てうもみきやうの茶釜の男
まごそれしてのめ
茶釜男 旦那さぜおくりうそれまん 久 みぜてもつかう

まりはきりの紙ざたくさん
とふきやうんよくひきうけ揚巻も新造早蔵を
ともなひうちへ
さゝべ アレくお星さんがこびいしよ
夜だくさんお星いふぐもつくあるよ さゝべ ばらしやんる
おばさんのありやうんのよ 茶釜男 しびやうんごゝえ
いつそもまもあい 久 それでよくいやうつあと

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

でもこふろ湯屋くの名ばかりで人の金銀を
出して揚(あが)くまく女郎を一文なしのこと
ふるひそれぢやようくおのびくく行てねをむ
やすればおの星(ほし)もろかぐ銭(ぜに)の事(こと)ばかり
あれこちの星の光(ひかり)のよくの
星(ほし)もいつぐめらふゆき金(きん)のまくハかくぐつも
のしや 揚まき それでざんと 茶屋男 アノ一ぢんかひまく
もるお星さまねさ 揚まき アノくまぢんねさんねがな

ぬおほくさんでざんをよくこくぐ
さんこまくがお星さんでもそのよふ
こわりくがいのをかひそくでざ
をかくこそふのくあるもうき世(よ)ぐしや
茶屋男 それでりくさのでござり
とふこや大つれバあぢきなくふ
えくかたが茶屋(ちや)へまくねさんねがな
揚まき よくまぢねさんねがな

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

くるまぎょうえんう〳〵二階へ
のぼる　こんばんはうんごせう
火でらでうんをうってお
ぎょうきいとう〳〵家（うち）
うんざうおうさんこだぞ
ざんせうよ（くさ）
脚六　久〳〵ぶりで中島へまいり
のいくうをおうきはんう〳〵
せうもうまるときいません
おまえ家（うち）つひ秘（ひ）
わへうやいつせうちもも
うとせうちいたらうよそれ
をめへうさんおどけみもの
いうまでもなくさらいをよ
サアうんができんうんでおあ
のそのでもあぞんせうね
脚五　おうやうやうん〳〵

脚六　い、事ばいうんざせ
脚六　ヨットごうん〳〵
脚五　おう

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

伊久さんがさぐらさんをつれてきたのうざんをアノ茶
ざんその内よ朝のうちを洗(アラ)がありいせう
うざんたね 揚 それとかさんへ五分切(ごぶぎり)をとてござん
をかうをまなばしておうさんうんしよ
ようざんをおくにうちがもいをかう移(ね)うんしよ
それでも一つのまゐらう ほ アイ 揚 あのよが寝(ね)るうぶが
つてござんをおまもも一つのうさんをうえ ほ いくさん
うんおいうんおやまうんしよ ぬ ころがりいをかう
用がありおうくおうくおうさんうんしよ
きどくうさんしよう ほ 揚 アイサ よまれさる
ようひろあまをうでござんをアア おあどんうんしよ
ぬ アアよう〳〵伊久いくつさの 揚 アア おまうんしよ
そぐちをいうたるうけがそうじめかうこうくく
おきひしたるがあるかうさんにもうんがうに
してありひしうちきろくまいう沢腹(さわばら)をたろ
ていろくうあてうすりというたを

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

そうすれば いろうん へ京町一丁目
ざ(座)ぜんよばれてまでやろぢ(女郎)かもけるし
おらァあねさんのおくいさんの
うらまでつさかすこしもちがわねへ
ぎり(義理)も恥(ちぢ)もなくちもてゐるから
さぐりてゐるだしぬけにいつまでも
らねばよかつたと手をまくつて家と
りあんまをあんまりふてゐやうにして

肉(ゐ)のまんまでもよいから揚(あが)りをしてお
んもとへ四(よ)ツ半(はん)ごろがかり業でもできる
なるべくはやくでる来もあるが式(しき)
ころが宴会をかたづけるころ疲(ひぐ)
ころから大抵(たいてい)やすんでわ
うちへかへりたくなるから神河の口
とうんが岸よりの座敷でござ
のう生魚をかうふりもおらぬ
居る揚(あが)りやうもあれどもあんまり
ひ来ないやう

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

おきるのんし　嵐でござんせう
ほひそれようもちをけさ小便もらくおいてろろ
どどもよいうのにまたれぐ
じやこの伊久といふいちもんの猫がこうんでは
さまぶりんの袋のねづこ
きことのおやいや女六ぶ
名のるひんしきぶまざるちぐうて
ありまねイヤ一寸大義
いやうつちやてて
伊
いやなぜよ迷ふのとうせんやんぢーのいろ
さまでもあろうかんのうおられくまんぢや
そう上方生れのまどの雷北よでりのくあり
ぐひのお金といふのが大分あるゆへふかさ
といふても命がアノ人よたそら純る伊勢久とい
ものぐんと一緒そんそ
てあるゆへむよゆへすゆへ廊下へ
もう大にうぶ仏ほいんやいやや
一十

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

客もそらず人の金銀をそゝぎてあげさせ帰
遣(つかはし)ける仲の町(なかのちやう)にて
引(ひき)つれこゝろくもまよはぬ
けるもよんぬを人ようぐぐあるく
のくいれるゆるしくおりら紋日(もんび)の日も出
仕久のそう人小いれぬようにするがよくそれ
でもあれさうずい身請(みうけ)して囲(かこ)つまでていひだ
ろろぴいそるや渡(わた)でもうんともすめ

ハるいそ神へ生(いき)まいり美(うつく)もこられまんうるる
ら男らしくこゝろぴりもひきまる
揚巻をのつこうんどやまらめるのなんが九万里を
羽(はね)を伸(のし)をやうな新(あら)してもきるがよんどや
金(きん)銀(ぎん)めくみせどこ年(とし)きてもいまくなぜろ
ぴふあぐくふさぬをねもできどばこれもとも
がよそそうなりのどや 両替 仕(し)
れいな仕事をあんをそうや疫病の神ぐ敵と

ガラス使用

やうでざんもなんぞこいつ金〳〵金ぐ〳〵女郎が
かゝるものゝ〳〵そひやんとかくして
も世界前まきらく秋やんと伊
助公をころす。やうなものが女ころ揚
のゝ〳〵あのうら嚊をうんかいて
やんとは付まてやこかんも
いつていきにおもひとゝ〳〵ほよいてたおく
うんかゝりうずしてまてゐもろていてざ

是ものもうけのあるいまうつ
でざんを伊イヤそいつのきやう
いそうゝ〳〵湯をやけ出ばおの
みなんざけそのうへ
いやぐ〳〵ひやくでもあ
伊久も同じ人ざよ
揚硯のうゝ〳〵戸の海うゝ
海ひ〳〵浅ひ〳〵ゝと色男ざかれべ

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

屋へ　おやくさんと助六さんをつくづくとながめ
ゆき　　　

ださまんざんよりや二階のつゝきれんやさんそこへ
きやうがはいつゞくまひきやくがあるまうけ
ゝも責らるゝそも芝神のゝへ指腹本ざんまひよ
そおゞんざんし

さまざまおいらんの一言よりも矢をつぐ
ものゝ志かりしてゝ下へ行そうそう冬、
ねいづゞし

揚さぶろのゝざんしたろうかまつ波あんじやん
そこの指でもつけさせる事でハざんすよ仲の町へ
おろうていきやうす
と叱ーのうらもりまを見ひやれおぢ
つれとする事をきやうかんしまよ涙ちやむ

六マレまよがきやう

○二立目

揚屋八百やの人数揃てられ見まつる
もまよまぐ氣ちがひ引さげられる

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

つまんこするものも門口の前に
牧淋しい家敷鳥もなくなび
るきいくいや婚丈人のものいふ
非常もなくまえも欲をまでもふりまして
つまみごとなる奥住婚

おなご おいらんぞうでござりやすねへ
ござりやす 吳竹ござりやす
ござりやすよおもうでござりやす 揚 おさごさんとうみんぞうみんした 客 さに
いさうでもいくがおめえいうんぶ人すに
ほるまんさ 此のやうに盛よまされる人も男の事が
こんな云ひぐさ出るものの紋若くもこがして
もわくぐで主人にたてかつまれるよ
でいう出くつまる気もの 揚 その事について
おくんをのでるくんきいへんがぐもちち
つと出ておくひまけぐんをうつまおいて
おくんるんし 客 つまぼくの事を 揚 ナニサをした。

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

ゐでハござんすけれ（きれ）ども
しそもさのめしれ（きれ）ハせず
さで脇（そば）をさして出（だ）すこそ客（き）の
ふてれべゆくるくるくるくるくるくるせん（せん）
るも同然でのそれしハハア女（おんな）も
おもしたてゐついてくるぐをする（す）客（き）でもあろうが
おもさる（いや）ぢやでだまり（だまり）客（き）よ仮（かり）そもそも
うハさるひつぢやまどあるまひ（まい）ものでゐ

代のつぶる事もあるまいくふてるるいつまでも如
てさせるがくとこひんさんに
人のまあれせるすうちきるんな
るぞハ不筒（ふつゝ）事でごんす
ふんきりうひとそんざまよくろうがいまよ
ゐんそんざいやれもひ
きるがいく 揚 おめえも客（きゃく）人（じん）
事をしやんすと思ひまるのでうハ気（き）ら

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

いるでハぶんせん此ようにおつてもおめもあの
てもらへ様のうへぐざんをそれですつてこう
引込でいつれくまりのう宝ひきこもでも
あれもんがため揚そんなおいらんとう今の
おのさんとハひとまろかなとけでおこう手
まりうんもつてやおいのうひせんとうんのうのやく
やほひてうをあうひもつこなをいろうんとう
らもへくいすそみとなたひまれいう

さら子ひきんうんとう宝おめくもぞいい所あこふいう
くん人のうやうでも揚へ人よいをさせおへつり
でうりうんをつれハをれこいう縁のありひした
ようつて添くおりいをおめえうかんぞんの嫁あ
おやう揚へ人揚いまくひきこもうるこなりく
おくんうんをな何う孫ぐざんせんへ宝されいさま仕
のくとうり見くまつこなおうんせんへ君を
知ねべ犬猫をぞうせんうんやくとうまつこ赤う

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

揚やたそは（下略）

新朱 ヲヽおいらん衆のやうにあぐい着をきるのハわ
大ぶくさ（ふくさ）ものを合羽見よさそふも思ふがそふ
おやアわれ（分）ものざんすかへ（あの客）
今ぢよふをきりつくれ（きる）合を西の隅ぐいろ
みる孫（こ）ようこの廊（くる）ざまの秘事（ひそみ）おい
きろうとするたのしさ（さぐる）つくも
のらしおまがはかる（ふさぐ）ようなわけのしひ（ひま）ハ按（按配）おきて

たて（立）ま（ま）ゐ（ゐ）ま（ま）ゐ（ゐ）ま（ま）ゐ（ゐ

のきへもうつるひと郎等(ろうとう)
やくそくなうんでも決(き)がある
病魔(びょうま)とのよく女六さんとおえわくられをしてから
おくろと事きけぞまで秘(ひ)まぞおとる
六さんをさそうひいやる客人も能
つとめまぐろづくひもあさうだみそれひやう
もの肉をくへきて六何とふ
よいひすむぞろひとやう野分(のわけ)がせう

八助さんよ腕(うで)くいれど不動(ふどう)私のそこ迄(まで)一のる
ざくと手放(てばな)してきんをとびやり玉(たま)とて
くいのそれくく心をはるく松(まつ)をうく小商人
乃そりあくひのどやりんさ処(ところ)
てきんむりくそよのおのやう小さ稗(ひえ)てん粉(こ)
やさりれく末の時(とき)るあもあくくよ
さけかれやさーのの我つけいろく来(く)
さもとぞ世(よ)八ゆう北んぞ

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

あいてくるも又てくるも山吉の口を
ありおく〳〵が門のへも二三人のいのちみう屋しおいんの
ふひろうでやうんもさけるこうの家のところ成
きくるく女くるまろ形く一生も二せへも見てよきまち
若ひへくさもようおいんも一且仕久のかく人
出まくびかのづくうらくもくすくするくぐゃワの
ひへくさへいまねのもけをそるせそあをもそこへ
やうまく脇へろうしまさたくきつけがワるくハ

てえのくそりみるへよもまくたろうおいんのかく人
ところぐらを引ふまが引多男よかけてそうして
する

くこく成てけるこをよろうぐ
一会ようろくきいぐ
提 ちくろおくえそくじめかく配をえ伸ぐかる
がいんぐそくみるぐてらまてせんのうちへ庄屋もろ
うすの男もきれようはろくおいんのおん祝

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

ひきさる

ひきさる

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

新 おぐらーのうちくしんぼうもち 揚 ハアくくと注

○二三豆図

梯峡梯の中を揚巻のおぐらーを
魚のようにやきて通りざれ衣も伝えて次体の所
等分の分れよとりそへば 筆者まぬ おいらんおひさし
ふりておいらんようござりまする 揚巻 アイまざ
くく乳もぐるくるざんを伝久まんまでござん
まするん 女房 うぜおそうござりまする 揚 おそいがよう

さんを 女房 おいらんひさしぶりでありんす 揚 ようござんす
ませんえ 揚 ようござんすかえ 今までであるまりふさ
きしまくく一つた事ゝさが久しぶりでござんすかえ 笑
さんのまんまんちがよふござんを 女房 後世サワリ
そなよおいらんいろものたまるまりぷがいよ 筆者 ほんで
病気あけくのんほりのきくく 揚 ようござんと
酒を呑 女房 おいらんぬくてあげまするねえくくと 揚 一つ
おあがんすんなし 女房 マアおいらんおあがんすまし 揚

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

そんなら〳〵トばうちやう
ほごとうり　サがり　ヨヤおいらんぢやアねへかやうにわがら
てもあろうほをつせもつ〳〵ごほごとうりさがりもけつこうく
うりほうめんよしある糸町の
まつまつりほう〳〵さがるかどおらんハ
ぬ　ぬ
神さまごぞうさん　揚　アノおいらんがらんぢやコレ
たをや助さんがきれん〳〵ろくでもねへやつ
トまへの筆
ロをつけてそろ〳〵そろ　たばこ　そうろうおいらんさまそろ
揚　伊久さんがお出すんしやうおいらんぢやアねへかやうに

今までお出なされはせんかつたがおやおやさうもあろうまん　揚　そんなら
ていきひせう　トまへの筆ハ打消とのつゝ
おいらんのちかく　揚　アイとうさきゆく　女房　おいらんお
わづらひアアおあづけなさんしよ　揚　アイこゝがよ
ざんさとそんさんとうさきゆく　女六　ばこゝろハ
ひさし〳〵引込そうきさんしよさうもハいくさも
の内ごらうあるアたまさうもつてふるぢがら

国立国会図書館　廓の桜 208-17
ガラス使用

ふさのつうろハすこしづゝうハさきくのくそれうてら
すこしくおまへさのそうてんくこ
くらのよこてこぢんまりハ仕入ぢうよ
ぼびこようそうたらうんの事ざ
おりえさんの事ゆへ内ふとたてをつきぬてくこい
したようくゝんでてこひしたがう人よ愛さう
さしぐ多でざんをかうまうすもをぶてそ
まひさまろがゆ事がつまうひさんしぶひさのよ

いほうまろといつてをかう人をさのんでこびをかして英
いやうくさんでたよろう仲の所へもでくした内章の沢
がつひてそひそれで章をおりのさんこ内祝でのあひ
をそひしてハぜくそろさ人さんこ内五へたいてもと
そひさんろ此事ねりよ此んせうとおてなよあ
げんしものさ必ずぶ酔さやうとぐそるをいのう
ぐくいうんざんさくいろこのこひしてもつてう

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

をまちごくるやうなわけまれ
だうりゃうつてんすむやう揚だうりゃうつてんすむやう
れどうてどうとするものでごんをまもりこめうほせて
ざんをとる図ちごくんまりそうとうとうとうとうとうとう
わくてう根性のくるうさ女ともあつこのあんつまほう
だれてかくう人中で風そうひさしいくびう殺のう川
のもいくなう人めを見ずの女まりとうとうとうとうとう
うぬゆん今ようてよびめらひとうごぜ此頃をぜ

そんなようするかくりざ揚たうかくうでも手がきれくでは
のま伊久がをうまつをとうねんぜうでいけまれすきまれ
きれるハうねがやうなやつハ田舎へいつくもいつく田のう
うりうでうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
うとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
おとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

おりさんて〳〵揚老さん〳〵ト大らんの下より早扮
〳〵ハて〳〵であろ〳〵こそ〳〵
ござりたらうざんせう第
このひきやう百中九がめ
りこりよ入レ揚をつぎこむ第
がつきひしたそえ女旦
さんしまいかいさん〳〵揚
ア第
こそがつこそこそこざ

○四立目

やりもちの人ちやハこ着へのこあつまる大町
ひろうり門〳〵もこもる人うげハ
よめこひよ面ぶそしたまり〳〵尾上物
さるこるきこ月の格気
られあるかこまこば狐火のごく消へ二階〳〵も
ふりこそこ歌こよ気味こる狐人舎の客の
あるの月見えをげこぶ役所の下拾のふ

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

廓の桜　大尾

梅暮里谷峩著

傾城買二筋道　後篇　同廓之癖

傾城買指南　三篇　同霄之裡

傾城買猫之巻

白狐通

国立国会図書館　廓の桜 208-17

ガラス使用

208
17

契情買言告鳥　つまの御ぐしをくしまきり
辛　同二篇廊之櫻　おもしろきまゝいろ〳〵ものゝひながき
酉　傾城買甲子夜話　甲まの松ひろきまゝにて二ちやくものあつまるをかし
新　契情買中夢之汗　書まゝそのいろいろものをかゝれありもの
版　鶴岡花撰帳　右ごのまゝのまゝをうきよるありもの
　　近ごろ出来仕つり百ぢ琉球渡海の絵

国立国会図書館　廊の桜 208-17
ガラス使用

208
17

国立国会図書館　　廓の桜 208-17

ガラス使用

国立国会図書館　　廓の桜 208-17

ガラス使用